

- 【ミッションステートメント】「いっしょに歩こう！プロジェクト」～日本聖公会東日本大震災被災者支援
- ① わたしたちは、東日本大震災により困難を負って生きる人々に敬意を払っていっしょに歩きます。
 - ② わたしたちは、被災地の方々の生活と地域の再創造に向けていっしょに歩きます。
 - ③ わたしたちは、主イエス・キリストが、共に歩いてくださることに励まされていっしょに歩きます。

2月に入って、今年は例年より非常に寒く、仮設住宅での生活にも影響が出ています。例年、釜石ではそれほど雪は降らないのですが、今年は多く降っており、高齢者の多い釜石の生活を直撃しています。震災支援室では現在、教区としての“ボランティアのしおり”を準備しています。今しばらくお待ちください。また、できるだけ早く次のツアーの案内を出そうと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

【教区婦人会・帰札】

今回釜石に行かれた教区婦人会の皆さんは、無事に札幌へ戻られました。教区婦人会長・吉井頼子姉より、報告をいただいておりますので、掲載いたします。

釜石行きが叶って

札幌聖ミカエル教会 吉井頼子

教区婦人会役員会でも話し合われましたが、教区婦人会先遣隊との気負いはあまりなく、個人的にも訪問して関わる機会を早めに、と考えていましたが、年が明けてしまいました。

雨宮春子姉（カリタスでJOCSメンバーとして奉仕される）の車で釜石に向かいました。心配していたフェリーもあまり揺れず、ほっとしました。無事センターに到着。オリエンテーション後、視察に向かい、皆、言葉もなく、痛みを感じながらの時間でした。残された家の土台。その土台に草が生え始め、土台が分からなくなって行きつつある……。そして、一面原っぱになってしまうことの怖さ……。住まわっていた方々、被災された方々への思いを遠のかせてはいけない、と強く感じました。夕方、最後の神愛幼児学園の子ども（仮設住宅から通園している子どもたちを含めた）のあどけない顔、笑顔に救われる思いがしました。終わりに、保育園訪問を組んでくださったのは、海老原兄のわたしたちへの配慮であったようです。

写真洗浄は、祈りと共に行う、心が重くなる作業でしたが、8割の写真が被災者の方、関係者の手元に届くとの言葉に、一枚でも多く、と心をついにしました。仮設住宅での“足湯”をしながらの“お茶っこサロン”にも伺いました。お声をかけると、女性も男性もサロン（集会所）に来てくださり、お相手からのお話に耳を傾け、楽しく語り合うひとときでした。以前の仕事のこと、現在の仕事のこと等をお話くださいました。心の中でエールを送らずにはいられません。仮設住宅から毎日30～40分かけて、電動自転車ベースに通ってこられる男性の方、買い物帰りなのでしょうか、毎日のように寄られ、おしゃべりをして帰られる女性の方々。それぞれの方々（みなさんお年を召していられませんが）にとって、釜石支援センターは大切な心の拠りどころとなる、癒される場所になっており、みなさん、海老原兄、向井姉に親しみを感じておいででした。

ほんの数日間の滞在でしたが、やはり釜石に行ってよかったと思っております。でも、気持ちはあっても行くことが叶わない方々もおられます。北海道にて心を寄せ続けることの大切さを痛感いたします。ほほえみながらのお話の中にも、まだまだ被災された方々の傷は、癒されておられません。お支えすること（かげながらでも）の必要性を強く感じました。

常駐しておられる海老原兄、向井姉に“神さまの御用のためにこれからもよろしく！”とエールを送りながらセンターを後にしました。

教区婦人会でも釜石支援センター、又目に見えない放射能と戦っている福島への支援に対して、どのような関わり方をすべきか考え、話し合いながらもとどまらず、進めていかなければ、と思っております。

最後に私事。母校香蘭女学校の先生お二人にセンターでお会いしました。二月の香蘭生のボランティア活動の打ち合わせで来訪されたとのこと。お会いできたことは、神様のお恵みでした。主にありて

【東日本大震災1周年を間近に控えて】

北海道教区震災支援室

司祭 大町信也

東日本大震災の発生から11か月が経過しようとしています。この間、北海道教区は、釜石での働きを中心として被災者支援活動を継続して来ました。特に、昨年8月「釜石被災者支援センター」が開設されて以来、海老原祐治・向井清子・両スタッフの献身的な働きに支えられ、多くのボランティアが参加して意義深い支援活動が展開されています。

北海道教区第(70)定期教区会では、「東日本大震災被災者支援の継続」に関する決議がなされています。各教会には、決議録が近く配布される予定ですが、改めて下記に掲載いたします。この決議に基づき、今

後、更に北海道教区に属する教会・信徒が、支援活動への思いを一つにして取り組んで行けるようにと、心より願っています。

「東日本大震災被災者支援の継続」に関する件

北海道教区は、日本聖公会東日本大震災被災者支援「いっしょに歩こうプロジェクト」と連携すると共に、東北教区との宣教協働の働きとして、東日本大震災被災者支援の働きを祈りと具体的働きをもって継続する。

また、北海道教区が取り組んできた「善きサマリヤ人奉仕活動」に由来する「サマリヤ資金」を活用し、支援活動にかかわる働き人（ボランティア）の派遣をサポートする。

提案理由：2011年3月11日の東日本大震災の発生直後より、北海道教区は、宣教協働関係に基づき東北教区における被災者支援の働きを開始しました。更に震災支援室を開設し、日本聖公会東日本大震災被災者支援「いっしょに歩こうプロジェクト」との連携の下、特に釜石において「釜石神愛教会・神愛幼児学園」と共に、被災者支援の働きを継続してきました。

震災後8か月を経過した後も、被災地における支援の働きは更に継続を求められており、北海道教区として、その必要に精一杯応えていきたいと考えます。

【池田司祭・派遣】

12月・1月と、長期派遣教役者を送ることができませんでしたが、2月16日より3月1日まで派遣教役者として、池田亨司祭が釜石支援センターに派遣されます。香蘭女学校などの、大型ボランティアが滞在する季節です。池田司祭の働きのため、お祈りください。

【毛糸提供のお願い】

釜石支援センターよりお願いです。釜石市内の仮設住宅では、徐々に自治会が機能し始め、仮設団地内でのサークル活動なども始まろうとしています。支援センターでも、手芸等のサークルを立ち上げるための支援を行っています。釜石では、手芸店が被災してしまい、毛糸が手に入りにくい状態です。不ぞろいでも、あまったものでもかまいませんので、送っていただければと思います。どうぞよろしくお願いいいたします。

【いっしょに歩こう！プロジェクト】

「いっしょに歩こう！プロジェクト」の活動の様子は、月一度発行予定の「ニュースレター」や、「いっしょに歩こうプロジェクト！」ホームページ <http://nkkk.org/walk> で、ご覧いただけます。

【支援室の活動】

インターネットで支援室ブログが見られます。毎日の釜石ベースの活動もアップされます。<http://nkkkhokkaido.blog89.fc2.com> 又は、「日本聖公会北海道教区ホームページ」→「東日本大震災」→「震災支援室ブログ」の手順でご覧下さい。

【震災支援室より】

- ◎ 支援室ニュースは、各教会において掲示下さると共に、増刷して配布ください。支援室ニュースのバックナンバーは、日本聖公会北海道教区のホームページにでも見る事ができます。
- ◎ 教会や個人での取り組みについても、お知らせください。他の教会の活動の参考になります。

【連絡・問合せ先】 電話：011-561-0451、ファクス：011-736-8377
Eメールアドレス：saigai@nkkk-hokkaido.jp

【釜石ベース】〒026-0031 釜石市鈴子町5-4 「聖公会 釜石被災者支援センター」
☎0193-55-4524、090-6999-7840
Eメールアドレス：nkkk311@yahoo.co.jp